

〔諸造船式圖〕茶船 俗ニ、投網舟釣舟ト云、

海獵茶船 獵船造茶舟

上口凡 長二丈二三尺、
横五尺、

〔和漢船用集 河海江湖獵船〕狩網船 攝州浪花にて、猪牙船を用、其わざ其價までも、漢の網梭船に

同じ、其船狭小にして、たゞ二人乗、網一疊と云に舟三隻を用水七八寸にてよく行、若難風逆浪にあふ時は、其舟二人して昇て陸に引上、風静て又舟を昇て、水におろして歸る、

〔倭名類聚抄 十一〕舩。唐韻云、舩、舩責猛 二音、和名豆、利布爾、小漁舟也、

〔箋注倭名類聚抄 三〕按藝文類聚、引宋元嘉起居注云、餘姚令何玠之造作舩、舩一艘、精麗過常、恐非漁舟、王念孫曰、小舟謂之舩、舩、小蝗謂之舩、舩、義相近也、按說文、無舩、舩字、蓋以舟似舩、舩得是名也、

然舩、舩亦古無是字、

〔類聚名義抄 三〕舩、舩 二音、責猛、

〔兵範記〕保元三年十月十七日癸卯、午刻關白殿 ○藤原忠通、令參平等院給 ○中略

釣殿前自石橋下經小島上臨河畔、新構釣臺爲船寄 重々疊階、右造高欄、

舩、舩五艘、相舩西岸、

御船一艘、本二瓦、船差十六人 字治、雜色

著黃櫨狩襖袴黃衣

公卿船一艘、同二瓦、船差十二人

著萌木狩襖袴薄色衣

已上二艘、寺家加修理、船差裝束、殿沙汰

殿上人船一艘、例河一、船差六人、